



ワシントン日本語学校事務局

HOT LINE (301)962-7415

Phone (301)962-7410

FAX (301)962-7411



はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

日本語学校での学びに耳を傾けて

校長 東間 義孝

五月となり、過ぎゆく春が惜しまれる頃となりました。

先週、授業が終わった後のことです。小学部の子どもたちが、自分たちで作ったこいのぼりを嬉しそうに揺らしながら、玄関へと向かう姿がありました。小さな手でしっかりと握られた棒から、こいのぼりへの愛着と、今日の楽しい思い出が伝わってくるようです。きっと、この日の日本語学校で体験したこと、学んだ日本のことを、早くおうちの人に話したい、見てもらいたいと思っているのでしょう。

また、最近は天気が不安定で、昼休みは室内で過ごすことが続いています。そんな中でも、小学4年生以上の子どもたちは、思い思いに図書館で本を読んだり、友達と日本語で会話を楽しんだりしています。低学年の子どもたちは、教室で色とりどりの折り紙に集中し、創造力を膨らませているようです。



日本語学校での子どもたちの一日は、このように様々な活動や学習、そして遊びを通して、たくさんの発見と喜びで満ちています。

お子さんが日本語学校でどのように学び、どんな活動をしているのか、また、何か困っていることや悩んでいることはないか、お子さんの話にじっくりと耳を傾けてみませんか。送迎の車の中や、家に帰ってからの少しの時間で構いません。お子さんは、自分の話を聞いてもらえると、嬉しくて「もっと話したい」「次はこうしてみよう！」という前向きな気持ちになり、自ら学びや活動に取り組む姿勢が育まれます。お子さんの学校生活を深く理解することで、気持ちに寄り添い、お互いの信頼感がより強固なものとなるでしょう。学校での出来事や活動は、親子の間で共有できる楽しい話題となり、会話が広がるきっかけにもなります。共に体験し、知識を共有することで、一体感が生まれ、絆が深まります。そして、お子さんの言葉の奥にある気持ちや、ふとした表情から、成長や秘めたる可能性を感じられたり、気付かせてもらったりすることができるかもしれません。



本年度スローガン『よさを見つけて褒めて伸ばそう』を胸に、共育の意識をもってお子さんの言葉に温かく耳を傾けてみませんか。

安全・安心に向けた取組① ～避難訓練（不審者侵入）～

26日、不審者の侵入を想定し、各学級の学習状況に応じて避難またはロックダウンを行う訓練を行いました。

ロックダウンをしたクラスでは、教室のブラインドを下げ、子どもたちは音を立てずに指示があるまで静かにじっとしていました。真剣に訓練に取り組む様子は、立派なものでした。この子どもたちの姿は、先生方からの事前指導が適切であったこと、子どもたち自身が万が一の場面をイメージして自分なりに考え行動できことから生まれたものです。



この取組をより確かなものにするために、日本の学校では訓練後に各学級で担任が事後指導を行います。しかし日本語学校は時間が限られておりますので、是非、訓練の様子をご家庭で話題にいただければ幸いです。

安全・安心な学校環境づくりは、今年度の重点の一つであり、子どもたちの命を守ることは学校の使命です。



安全・安心に向けた様々な訓練は、今後も続きますので、ご理解やご協力をよろしくお願いいたします。

日本の教育は今 Vol.2

現行学習指導要領のポイントを再確認

Vol. 1 で教科書改訂について話題にしましたが、教科書は改訂されても、学習指導要領が基準であることは変わりません。（小学校は2020年度から、中学校で2021年度から、高等学校では2022年度から全面实施）そこで今一度、学習指導要領のポイントを再確認してみましょう。

<『生きる力』を育む！>

学習指導要領で『育成を目指す「資質・能力」』は、大きく3つの柱で構成されています。これらはすべての教科等に共通する基本的な考え方で、「生きる力」を育むための土台となっています。

<育成を目指す「資質・能力」の3つの柱>

◆**知識及び技能**…各教科の基本的な知識や概念、事実、方法などを理解し、それを活用するための技能を身につけること。

例：算数の計算方法、理科の用語、歴史上の出来事、英語の語彙や表現など。

◆**思考力・判断力・表現力等**…習得した知識・技能をもとにして、課題を発見・解決したり、自分の考えを深めたり、相手にわかりやすく伝えたりする力。

例：文章を要約する、グラフを読み取って考察する、意見を発表するなど。

◆**学びに向かう力・人間性等**…主体的に学ぼうとする意欲や、自分の学びを振り返る姿勢、協働的に学ぶ態度、他者を思いやる心や社会性など。

例：チームで協力する、最後までやり抜く、自分の学び方を工夫するなど。

この3つの柱は、単に「覚える・できる」だけでなく、どのように学び、どう活かすかに焦点を当てているのが特徴です。

これらポイントを押さえた上で、「共働学習」を踏まえた日本語学校での学びと家庭での学びのあり方を、今後も一緒に考えていきませんか。